

開 議

○小関秀一委員長 これから、昨日に引き続き、決算特別委員会を始めます。

本日の会議に欠席の通告委員はございません。よって、ただいまの出席委員は定足数に達しております。

平成29年度長井市各会計決算に関する総括質疑

○小関秀一委員長 それでは、昨日に引き続き、決算の総括質疑を続行いたします。

宇津木正紀委員の総括質疑

○小関秀一委員長 順位4番、議席番号1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 おはようございます。

私は、生きがいと活力のある長井市になることを願い、予算総括質疑をいたします。よろしくお願ひします。

最初に、1番目の道の駅の運営についてお伺ひします。

歳出7款1項2目商工振興費024観光交流センター事業3,477万2,066円について伺ひます。

観光交流センター、道の駅川のみなと長井、以後略して道の駅といたします。道の駅は昨年4月オープンし、1年間で来客数50万9,137人、売上高約2億4,850万円と、1年目は好調な滑り出しとなりました。1年目の幸運に甘んじな

いで、道の駅運営の課題を問い、さらに磨き上げる、いわゆるブラッシュアップしていく方策を考えたいと思います。

(1)であります。運営の課題はないのか。直売所・菜なポート、物産コーナー、飲食・フードコートの課題はないのかについて伺ひます。

売上高の部門別では、直売所・菜なポート部門が約1億3,168万円、物産部門約8,389万円、飲食・フードコート部門約3,038万円、その他、市内和菓子が約255万円でありました。直売所・菜なポートは、南店の運営が継続されることにより、当初計画よりも売上高が低くなったのはいたし方ないと思います。もっと売上げが減るのかとも心配しましたが、駅長や職員の努力で約1億3,168万円の売上げを達成できたと思います。

しかし、直売所・菜なポートは出品者、出品数が少ないため、市場から買い入れているため価格が高目になっているのではないのでしょうか。また、お客さんがふえないことにつながってはいないのでしょうか。出品者、出品数をふやす方策を検討すべきだと思います。

菜なポートのラベル発券機について、私の感じる課題は2点あります。設置場所が道の駅事務室の片隅にあること、菜なポートのラベル発券機とは違うため、高齢者の出品者はなれにくいことでもあります。

日本農業新聞に、直売所に関する興味深い記事が出ておりました。抜粋して紹介したいと思います。直売所は、鮮度、値ごろ感、それに地場産の安心感で着実に拡大してきたが、今、第4のキーワードとして珍しさが浮上している。買い物客は、日常野菜を買った後で、何か変わった野菜や果物がないかと店内をめぐる。このわくわく感が大変重要となる。中略します。売れ筋でないと商品が売り場から消えるスーパーと違って、珍しい野菜があつて楽しいと来店者を引きつける直売所をもっと広めたいという記

事でありました。

菜なポート南店が継続されることにより、直売所の売り上げが当初計画よりも減っていることはさっき述べたとおりです。このことにより、物産コーナーは当初計画よりも売り上げの比重がふえていると思います。私は、売り場面積が狭いのじゃないかと感じております。売り場面積をふやしていくことも検討してはいかがでしょうか。

物産コーナーは、お客さんの流れが正面入り口からと菜なポートからの流れがあり、商品のレイアウトが難しいと感じております。今の商品レイアウトは、コンサルタントにアドバイスいただいたのでしょうか。また、売れ筋表示を続けていくことも検討してはどうでしょうか。

先日、家族3人で道の駅の飲食部門・フードコートにランチをいただきに行ってきました。家族は、長井野菜のロコモコプレート850円とドレス・ド・オムライス・デミケチャップ850円、そして私は菜の花油と寺泉冷製パスタ800円を注文しました。フードコートでは、隣接する菜なポートから野菜などの食材をその日の朝に買い付けているだけあって、新鮮な野菜をおいしくいただきました。ボリュームもたっぷりあり、2人の家族は食べ切れず、もったいないと思って私が残りを全ていただきました。

料理名が長くて、入り口の料理の表示で決めてから発券機で選ぶのに手間取りました。料理名の長さは適正なのかと感じています。また、料理のボリュームはちょうどいいのか検討してはどうでしょうか。

米沢牛は知名度があり、前面に打ち出すことはいいことだと思います。しかし、米沢牛極みステーキ丼は4,000円で、高過ぎて手が出ないのではないのでしょうか。注文は多くあるのでしょうか。もう少し手が出る値段設定はできないのでしょうか。米沢の道の駅では、米沢牛カルパッチョ、米沢牛串焼きがあり、山形新聞の報道

によると、お客様からはリーズナブルな価格と歓迎されています。

そこで、さきおとといの日曜日、米沢の道の駅に行ってきました。食事のメニューに、米沢牛もつ煮込み500円、米沢牛すき焼き重、みそ汁、おしんこつき1,800円、米沢牛カルビ重、おしんこつき2,000円がありました。また、フードコートの水は、紙コップで飲んでおります。ほかのフードコートでも、紙コップでの飲水は多くあります。しかし、水の長井を標榜し、超軟水のおいしい長井の水をPRしていますので、もったいないと感じました。長井の水をお客様に感じてもらう方法はないのかとも思いました。

フードコートは何を前面に打ち出すか、まだ定まっていないように感じます。私は、このように私なりに感じているところですが、道の駅の課題はないか、産業参事に伺います。

○小関秀一委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 お答えします。

道の駅につきましては、指定管理者として地場産業振興センターのほうに管理運営をお願いしているところでございます。仕様書上の項目につきましては全て実施していただいているところでありますけども、よりよい道の駅を目指してというふうな観点から、運営における課題について述べさせていただきます。

最初に、直売所に関してですが、菜なポート南店との2店舗展開になったというふうなことで、合計では道の駅で想定した売り上げを上回ったものですが、道の駅単体で見ると、出品者、客足の分散につながる結果となったかなと思っております。

委員からご提案ありました出品者や出品数をふやすというふうなことは重要な課題だなと思っております。そして、珍しい野菜ということも、ここにしかないもの、道の駅の魅力となる品ぞろえは、ぜひとも考えていきたいと思っております。

駅長から伺ったところ、好評を得た作物として、紫やオレンジ色のカリフラワー、あと紫ジャガイモなどありまして、色の変化に富んだもの等目は目にも楽しく、観光で訪れる方が購買につながってきたなということでしたので、今後とも取り入れてもらいたいというふうに思っております。

次に、物産についてですが、売り場面積は当初より拡大しておりまして、レイアウトも時期に応じて変化をつけておるといことであります。市外からの観光客が主な購買層となることから、長井の商品が際立つようなアピールが必要と考えております。季節感、あと旬な商品など、ポップの工夫、あと委員からありました売れ筋の表示など、これも継続して、納入業者との調整なども図っていきながらやっていきたいというふうに思っております。

それから、フード部門についてであります、当初のコンセプトが、まちなかの飲食店とかぶらない地産地消の地元野菜をメインにした商品提供というふうに考えておりまして、それに基づいたメニュー内容を工夫しているということでもあります。その説明を兼ねた商品名ということでアピールしているものですから、少し名前が長くなったりしているものもあるというのも事実でございます。

これから秋冬メニューとしていろいろ工夫をしていますが、そのときにはまた価格帯であるとか、あと新メニューの検討、あと委員からありましたボリュームなどについても検討していきたいというふうに聞いております。

あと、高価な米沢牛ですが、これもそれなりに売れてはおります。昨年度の実績で103食ぐらい出ております。今後はさらに伸びるように価格帯を考えたり、あと山形牛と比較ができるような新しいメニューなども工夫していくというふうに伺っておるところです。

あとまた、水についてですが、少しアピール

不足だというふうに私も感じております。今後指定管理者のほうとも相談しながら、長井の水、水道水のおいしさ、すばらしさが伝わるような表示なども検討して、飲料水コーナーを改善していけたらいいなというふうに考えております。

最後に、運営面におけるこうした課題に加えまして、観光交流センターである道の駅という視点においては、初年度の来場者は予想以上の結果となって、大変よかったわけですが、まちなかへの玄関として、お客様をもっともっとまちなかへ誘導するような仕掛けが必要と考えております。

やまがた長井観光局の誘客事業、また、これからグランドオープンいたします本町にあるまちなかの駅との連携などを強化して、中心市街地の活性化へとつなげていきたいというふうに考えておるところです。以上になります。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 丁寧な説明、ありがとうございました。

参事の立場からは、なかなか言いにくい質問だったかなというふうに思います。一生懸命答弁考えていただいてありがたいんですが、抜本的な対策のための課題の洗い出しというのがちょっとまだ足りないのかなというふうに感じました。

これから市長に伺いたいと思います。(2)の道の駅ブラッシュアップ検討委員会の項に入りたいと思います。

道の駅の運営について、さらにブラッシュアップしていく必要があるのではないのでしょうか。そこで、道の駅ブラッシュアップ検討委員会を立ち上げてはどうでしょうか。若手の出品者や道の駅の運営について熟知しているプロのコンサルタント、道の駅や菜なポートの職員の担当者、若手の商工観光課、農林課職員など少人数で、審議会ではなくワーキングチーム的な検討委員会でブラッシュアップ対策を検討していっ

てはどうでしょうか。市長に伺います。

○小関秀一委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まず最初に、宇津木委員からは、観光交流センター、道の駅に対しましてさまざまなご提言をいただきまして、ありがとうございます。昨日も内谷委員からも提言いただきましたので、大変ありがたく考えております。

先ほど谷澤参事からありましたように、観光交流センター、道の駅は、地場産業振興センターのほうに指定管理をしておりまして、したがって、市の立場としてはこういうことを議会のほうからいろいろご提言いただきましたということを伝えるだけなんです。ですから、私に言っていただいたのは大変ありがたいと。それはなぜかという、指定管理である地場産業振興センターの経営に関して私どもは言えるのは、市の関係者では私が理事長、そして理事の副市長だけです。結局違う団体なわけですから、その理事会の中で全て経営を決定してると。あるいは評議員会がございますけれども。

したがって、ご提言いただきましたブラッシュアップ検討委員会、大変おもしろいといえますか、意義ある検討委員会ということで私も認識しております。地場産業振興センターのほうでは昨年、今まで菜なポートの出品者の皆様、これ農家の方を中心に協議会を設けて、いろいろなそれぞれ皆さんのレベルアップやら親睦を図るということで、協議会を発展的に出品者協議会という形で組織化してございます。したがって、こういった組織と今回のブラッシュアップ検討委員会、これは全く任意の外部の団体なわけですね。結局、地場産業振興センターに対して何も言えるものはないわけですね。したがって、私といたしましては、例えば若手の市の職員やら、あるいはコンサルタント、コンサルタントも依頼するときには予算が必要ですし、したがって、これらについては地

場産業振興センターの特に指定管理の責任者である駅長のほうと協議をしながらこれは進めていかざるを得ないのかなと思っております。

なお、駅長はご存じのとおりプロでございますので、コンサルもあそこを開設する際にいろんなコンサルにかかわっていただきましたけども、私の率直な感想としては、やはりコンサルタントはコンサルタントでしかない。どこでも同じこと言ってるわけですから、長井の道の駅に対していろんなデータをきちっとあらかじめ出して分析して、あと周りを全部見ていただいて、その上でのアドバイスだったらいいのかもしれないけれども、一般的なコンサルになってしまうだろうというふうに思っていますので、そういったところも含めて、ぜひ検討してまいりたいと思います。

なお、やはり宇津木委員から言っていただきましたように、道の駅の魅力というのはやっぱり食であり、その扱っているお土産とか地元農産物、これが一番のメインだと思っておりますので、これらについてはご協力いただいている農家の方とか食品加工の会社の皆様とか、そういった方々といろいろ協議をしながら、お金をかけずにレベルアップできるというふうに思っています。

あともう一つは、今、道の駅はそれらとともに、いわゆる単なる点ではなく、長い時間そこで楽しめる機能ということで、やはり私どもで最初やりたかった河川を、河川敷を活用した楽しみ方を道の駅と結ぶることによって、あるいはフットパスと、またまちなかに接してるわけですから、そういったところをぜひ議会の皆様からもいろいろご理解、ご協力いただきながら、そういったことでの魅力アップも今後検討していきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございました。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございますました。

出品者協議会の目的というのは、市長に通告してなかったのではわからないと思うのですが、谷澤参事が設立総会の際に出席していたはずですので、出品者協議会の目的とどういう人たちで組織されてるか、説明いただきたいと思えます。

○小関秀一委員長 谷澤秀一産業参事。

○谷澤秀一産業参事 出品者協議会については、ことし2018年の4月1日から運用を開始したということでありまして、会員は道の駅川のみならず長井及び菜なポート南店へ出品登録している方々で組織されております。

目的としては、安全・安心な生産物の出品を推進して、消費者との連携交流を図ると、会員相互の親睦と所得の向上を目指すということを目的にしている団体でございます。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。

この目的の中には、道の駅とか菜なポートをどう磨き上げていこうかという目的はないんですね。そのないところをお願いするのは無理があるんじゃないかというふうに私は感じます。

フードコートも店員さんすごく愛想がよくて、あと直売所も、菜なポートもすごく店員さんが愛想よくなって、本当にここの面ではよくなってるなと感じています。しかし、抜本的な問題点があるのではないかと。それは、ことしと去年の5月から8月にかけて、この4カ月間の売り上げと入り込み入館者数を比較してみました。入館者数は前年度比84%、それから直売所が87%、物産のほうは83%、フードが85%、全体で前年比85%。このままいくと、去年2億4,800万ほどあったものの85%とすると30年度は2億1,100万円、今のペースだとこれにしか行かないと。心配なのは、まず指定管理料が間に合わなかったかどうか、地場産は捻出しなき

やならなくなるのかと、一番の問題が私、市民はなかなか行ってくれない、そこをどういう対策とって、先ほど言った、ほかに大きな問題があるんじゃないかと。市民が行ってみたいくなる道の駅とか、そういうことを今から検討して対策を立てないと、道の駅が生き残れるかというような心配をしております。その点、市長はおまえの心配は余計だというふうに感じて、私の心配が大丈夫だと思っているのか、本当に私は予算をかけてもプロのコンサルタントを入れて、その道の専門家の方にブラッシュアップどんどんしていかないと心配なものですから、市長、その点どう考えていらっしゃるかお願いいたします。

○小関秀一委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大変貴重なご提言ありがとうございます。去年が上出来過ぎたんだと、これが通常だろうなと思っております。やはり米沢の道の駅とは天と地の差が、開きがありますよね。それは立地ですよ、黙ってても入るところと。我々は知恵を働かせてやっぱり魅力アップしないと生き残れないというのは、これ宇津木委員のおっしゃるとおりで、ただ私が申し上げたのは、市が直営してるわけではないので、結局文化会館とか図書館と同じなわけですよ。図書館とか文化会館については、あんまり指定管理者に私どもは物を言いませんけども、やっぱりそれだけ道の駅に対して言っていたかというのは、それだけ親しみを持って心配いただいているんだと。そして、これは基本的に地場産センターが長井市内では一番あのぐらいを扱える商社的な機能があるということで、商社をどうするかというのが今課題で、人の問題であったり、あるいは施設の問題であったり、施設については今さらどうしようもないわけですから、やっぱり宇津木委員がおっしゃるように、限られたスペースをどういうふうに生かし、なおかつどのようにいらした方にもう一回来てみたいと、

あるいはいっぱい物をもっと買いたいと言ってもらえるような場所にするかということについては、おっしゃるとおりだと思います。

ただ、市のほうでこちらを組織して、それで地場産センターに提言いただくということはいいんですけど、それをやるということではできないわけですよ、これ、指定管理ですから。ただ、幸いにも私と副市長は経営にかかわっておりますので、それらについてはちょっとまずは道の駅の駅長と相談してやってみたいということです。予算も必要です。

あとは、私も余り駅長さんには細かいこと言いません。やっぱり向こうはプロで、スーパーを何店舗も店長として、あるいはそのスーパーの幹部の社員としてかかわってきた人で、見るとやっぱり今もつき合いがあって、いろんな方々が来てるんですね。あとは、宇津木委員もご存じだと思うんですが、例えばレジのシステム一つにしても、いろんなところとつき合いのある、そういう業者さんなわけですから、そうすると長井の道の駅はこうしたらいいんじゃないか、ああしたら、そういうアドバイスなんかもあると聞いてます。ただ、どこかでやっぱりもう一回総ざらい、総洗いざらいといえますかね、総ざらいをしなきゃいけないので、それが2年目の経営がある程度固まった時点でやるべきだなと。したがって、タイミング的には宇津木委員から言っていたいただいたようなことを年内中ぐらいに検討して、何か月かかけて、そういう提言をいただくということは大変ありがたいと思っております。ですから、余計なことだななんて思っておりません。

ただ、もう一つは、やはり限られたスペースですから、やっぱりほかの道の駅、話題になってるところは、周辺も含めて非常に魅力があって、そこに集まるわけですね。私どもそれをまちなかに広げよう。その前に、まず川のみなと云ってるわけですけど、川のみなとじゃな

いじゃないかと言われてるわけですよ。何だと、名前ばかりかということですから、それらについてもぜひ議会のほうからいろいろご協力いただいて、施設のほうもお金はかかりますけれども充実させたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 市長は理事長であるわけですので、期待したいと思います。

図書館は、指定管理になってからずっと貸出数も来館者数もふえております。それは市民が評価しているから私たちも順調だなと感じてます。斎場のほうも、指定管理になってからサービスがすごくよくなって皆さん満足してるので、文化会館は文化会館で一生懸命頑張っているの、それは余り議会では話題にならないのは当然かなと思っております。

ただ、道の駅は1年目ができ過ぎだと市長はおっしゃっているんですが、ちょっと15%ぐらい落ち込んでいるというのは心配です。菜なポートは逆にふえていると聞いてるんですが、そこがどうも市民の方がなかなか道の駅にござらないところを心配しておりますので、再度聞いたりしませんのでぜひ。予算がかかることは重々わかってます。プロのコンサルタントって報償費とか、それは市の予算で委託するとか、そういう方法もあると思いますので、ぜひ検討いただければと思います。

次のふるさと納税について伺いたいと思いません。

歳入の16款1項1目総務費寄附金4億4,308万2,051円、17款2項3目ふるさと応援基金繰入金6億2,889万2,602円と歳出2款1項6目企画費、ふるさと納税事業7億7,804万4,047円について伺います。

総務省は、昨年4月、返礼品の調達額を3割以下とする要請、いわゆる3割ショックがありました。その後の状況を問い、納税額をふやす

ことやPRの対策を考えていくものであります。

(1) 3割ショック後の状況はについて伺います。

平成29年度は、ふるさと納税寄附金の大きな伸びがありました。第1位のビールが29%、第2位の米沢牛20%、第3位のリンゴ、ラ・フランスが10%、第4位のサクランボが8%という結果でした。3割ショック後の平成30年度の現在の状況は、第1位のリンゴ、ラ・フランスが41%、第2位のスイカが18%、第3位のサクランボが13%、第4位のシャインマスカットが12%という説明でありました。私は、リンゴ、ラ・フランスとスイカが上位を占めていることに注目しました。この状況はどのように分析しておりますか、地方創生参事に伺います。

○小関秀一委員長 竹田利弘地方創生参事。

○竹田利弘地方創生参事兼総合政策課長 お答えいたします。

本市では、ふるさと納税は自分の生まれ故郷やお世話になった自治体、応援したい自治体などへの寄附金であることや、昨年4月の総務大臣通知、あと総務省自治税務局市町村税課の説明会などを踏まえ、昨年の11月27日から、お礼品に係る返礼率につきまして、全て30%以下としております。

その結果、平成29年の4月から8月までの状況と30年の同時期を比較いたしますと、受け付けベースですが1億8,776万円が6,889万円となっておりまして、前年度から比べますと63.3%の減、したがって、3分の1強しかいただいてないという大幅な減となっております。

県で行った調査で県内各自治体の状況を見ますと、県内は全ての団体で返礼率は30%以内と今現在しておりますので、本市とほぼ同じ傾向のところ、中には前年の1割だと、あと4割とか5割というところが非常に多く見られます。

総務省が9月11日に発表した9月1日時点の調査結果では、返礼率が30%を超えたり電化製

品や地場産品以外の品を返礼品として不適切な団体が全国1,788の自治体のうち21%程度に当たる380団体いまだあるというふうに示されております。

不適切とされた団体、名前が実際上がってるわけですが、ふるさと納税のインターネットのサイトの返礼品のランキングでも実はこういうのが特に出てるといってもありますが、通知を守らない自治体が特に上位を占めているような傾向がございます。

特に価格が一定の例えば工場などでつくられる品物は、返礼率がとにかく高いところに集中する傾向が顕著でございますが、いわゆる市場価格が天候などに左右されやすく、例えばそこでしか収穫できないような果樹類などについては、返礼率が30%以内の団体でもランキングの上位になっているところがあり、本市におきましても、全体的には大きく減っておりますが、例えば長井でも数多く栽培されるリンゴなどの果樹類については、比較的減少率が低いというふうに分析しております。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。

いまだ守らない自治体が380団体もあるというところで、山形県では率は3割守ってるという状況だと新聞報道されています。

(2) 3割ショック後の対策はについて伺います。

リンゴ、ラ・フランスがふえています、いろんなチャレンジをしていくことも必要だと思います。伸び筋はさらに強化していくべきだと思います。売れ筋対策ですね。また、生産者や品目をふやす手だても行っていることも考えていくべきだと思います。このような対策をどう考えているのでしょうか、地方創生参事に伺います。

○小関秀一委員長 竹田利弘地方創生参事。

○竹田利弘地方創生参事兼総合政策課長 委員か

らご案内のとおり、今年度に入りましてリンゴなどの果樹類をお礼品に選ばれる方が非常に多くなっております。

今後の対策でございますが、委員からご提言ありましたように、大きく分けて2つあると思います。1つ目が、現在人気のあるお礼の品をさらに選んでいただくための対策でございます。これは、長井の商品、品物がさらにほかと比べてすぐれているところをもっとPRしたいと、検討していきたいと思っております。あともう一つ目なんですけど、お礼の品として選んでいただけるようなものの要するに品目をふやす、選定でございます。現在は、市の担当の総合政策課と地場産業振興センターでお礼品のラインナップを150種類程度取りそろえております。今までのことを踏まえまして、選んでいただいたお礼品がなくなってしまわないように生産者の団体と連絡を密にするということと、これまで気づけなかったがきらりと光る地場産品などを見つけていくように、地場産業振興センターや生産者の皆様などと入念な打ち合わせをこれからもやっていきたいというふうに思います。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。人気の商品をPRする、人気の売れ筋の品目を数量を変えたりするのかなと捉えましたが、品目をふやすという努力をしていくということ、わかりました。ぜひ3割を守りながら、長井の納税がふえるようにぜひ頑張ってくださいと思います。

3割ショック後のふるさと納税をふやしていくには、生産者の協力が欠かせないと思います。生産者に品物の量をふやすように頑張ってくださいことは大事なことだと思います。生産者の声を聞いているのでしょうか。一人一人の声を聞くわけにいかないの、取り扱ってる地場産センターとの話を聞くとかの打ち合わせを行っているのでしょうか。その打ち合わせにより何

らかの対策を打つことを行ってきたのか、これから検討する考えはあるのでしょうか、地方創生参事に伺います。

○小関秀一委員長 竹田利弘地方創生参事。

○竹田利弘地方創生参事兼総合政策課長 地場産センターとは、ふるさと納税の全般につきまして、必要に応じ随時打ち合わせを行っておりますが、今年度は特に寄附金の額が少なくなったことから、農産物の出荷先としてお礼品等考えておられた農家の方も多数いられたことから、緊急に5月と7月に、管理職も含め農林課と商工観光課、産業活力推進課、総合政策課、あと地場産センターで打ち合わせを実施いたしました。

このように地場産センターと関係課、あと生産者の打ち合わせなどからアイデアが生まれまして、30年度におきましてはお礼品として人気の高い、サイズふぞろいですが大変おいしいリンゴやサクランボを手軽にお礼品として選んでいけるようなフードパックという小さいちよつとパック詰め、あと雪若丸の先行予約、つや姫の今までは精米でしたが、今度玄米もやってみようということで玄米、あと地場の工場であります共同薬品の商品、あとはクイモ関連商品等を追加いたしたりしております。

あと、最後になりますが、特に農産物は生産者から品物の量や品目をふやしていただくかなくてはお礼品としてお送りすることができませんので、直接生産者と常に触れ合っております地場産業振興センターとも、これまで以上に連携を密にしていきたいと存じてます。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 サイズふぞろいのリンゴが人気だということで、手ごろな値段が人気なのかなと思いますが、ぜひこういう生産者と地場産、それから庁内の関係各課で知恵を出して頑張ってくださいと思います。

次に移ります。生産者だけではなく、地場産

センターにも頑張ってもらいたいと思います。商工観光課からいただいた地場産業振興センターの平成29年度ふるさと納税事業収支状況書によると、ふるさと納税受託事業では収支差額が約306万円、需要開拓事業、ふるさと納税記念品取り扱い及びネットショッピングでは収支差額が5,107万円、2つの事業の収支差額合計が約5,413万円となっております。返礼品の調達額を下げてもらおうように地場産業センターにお願いできないでしょうか。地方創生参事に伺います。

○小関秀一委員長 竹田利弘地方創生参事。

○竹田利弘地方創生参事兼総合政策課長 この件につきましては、委員からのご提言を踏まえまして、地場産業振興センターにお願いすることを検討したいと思います。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ぜひ調達額を下げ、そして納税額が魅力があるお値段になって長井市に納税していただければ、長井市の財政もよくなって地場産センターへの財政支援もできていくということだと思いますので、その辺をぜひ地方創生参事に頑張ってもらってお願いしていただきたいと思います。

(3)に入ります。ふるさと納税のPRについて伺います。

ふるさと納税のインターネットサイトは、平成28年度は1サイトでしたが、平成29年度2サイト、平成30年度は4サイトとチャンネルをふやしていますが、その結果はどのようになっていますか、地方創生参事に伺います。

○小関秀一委員長 竹田利弘地方創生参事。

○竹田利弘地方創生参事兼総合政策課長 平成28年度でございますが、寄附金額が2億8,185万円ほどございまして、インターネットのサイトはふるさとチョイスのみでございまして、受け付け数全体の94%で、郵送等が6%でございました。29年度ですが、寄附金額が4億4,308

万円ほどでございますが、サイト別、29年の3月から楽天も始めましたので、ふるさとチョイスが42%、楽天が56%、郵送等が2%になったということでございます。他の自治体も見ますと、多くの寄附金をいただいているところは数多くのサイト、今、日本全体で約10程度のサイト、大きいものから小さいものまで含めると。あと、地域に特化したサイトも含めると10程度あるようでございますが、多くの寄附金をいただいたところは多くのサイトにやはり掲載している、多く露出をしているという傾向にございまして、本市でも先ほど言いましたように楽天をふやした効果もあるようで、28年度と29年度比較しますと1億6,000万円ほどで57%程度28年度から29年度についてはふえております。

なお、30年度、今年度ですが、いわゆる先ほどの3割に落としたという経過もございまして、平成30年の8月を見ますと、受け付けベースでふるさとチョイスが27%、楽天が47%、さとふるが23%、郵送等が3%となっております。寄附受け付けの窓口をふやすことは、いわゆる長井市を知っていただくということがまず一つ、そうすると寄附につながると。あと、サイトごとに得意分野がございまして。例えばふるさとチョイスはシェアナンバーワンと言われておりまして、数多くの全国の全部の自治体を一応網羅しております。あと、楽天は楽天スーパーポイントということでキャンペーンを数カ月に1回打つてると。あと、さとふるはとにかくネット広告がかなりやっております。あと、ふるなびは、アマゾンのギフト券をプレゼントするなどから寄附者が自分のスタイルに合った形で寄附ができるようになり、サイトの増加が寄附の増にもつながると思っております。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。大分チャンネルがふえて、いろんなところからの申し込みがあるということわかりました。

次に、山形市の例をちょっと引いて質疑したいと思います。

山形市では、ふるさと納税の独自サイト、ふるさと納税特設サイトを開設しています。また、返礼品に加えて、こうじみそセットをプレゼントするプレミアムキャンペーンを始めています。このような取り組みをどのように地方創生参事は捉えているのか伺います。

○小関秀一委員長 竹田利弘地方創生参事。

○竹田利弘地方創生参事兼総合政策課長 現在のところ、県内の市町村で特設のサイト、独自でサイトを開設してるのは、山形市と天童市のみでございます。ただ、山形市、天童市は、独自のサイトだけではなく、当然ふるさとチョイスとか楽天とかさとふる、そういったサイトに出しながら特設のサイトもしてるというものでございます。

山形市とかいわゆるオリジナルのウェブをつくってる構築の業者からちょっと聞いたところ、初期費用が180万円から250万円、あと月額が2万円、そのほかに毎月のメンテナンスが、例えば臨時職員等を雇用してやっぱりメンテナンスも当然必要になってくるということで、費用がかかるということです。

山形市を聞いたところ、9月上旬からサイトを開設しておりますが、1日数件しかそこから入ってこないということで、やはり特設サイトをやったからといって、山形市の場合は山形市の品ぞろえで山形市が独自でPRすることはできるが、なかなか例えばさとふるとかチョイスとか楽天とかある中で、山形市独自のサイトに来ていただく、見ていただくことはかなり大変だなというふうに申しておりました。

このようなことから、やはり他の自治体の状況を見ながら特設サイトの開設につきましては検討はしていきたいと思いますが、やはり費用対効果の面からは早急な導入はちょっと無理なのかなというふうには考えております。

あと、いわゆるキャンペーンでございますが、昨年度、先ほどありました総務省の担当の理事官にちょっとお伺いしたところ、いわゆる10キロの米をお礼品に選んだときに5キロプラスしますよみたいなキャンペーンを行ってるところもあるが、それは本来の趣旨ではないでしょうと言われました。やはりキャンペーンと称して返礼率をただ上げるようなことは、絶対それは許しがたいことではないかと。それで、例えば天童市の駒、天童の将棋の駒のように、ちょっとした地場産品の少額のお礼品であればいわゆる許容範囲じゃないかということもございまして、長井市のほうではフラワー長井線の無料乗車券、フリー乗車券の引きかえ券などを長井市でもキャンペーンを行っておるわけでございますが、先ほど言いましたように特産品の中からそういったキャンペーンにできるようなものをちょっとこれから選定いたしまして、ふるさと納税の増につながるような対策は打ってきたいというふうに考えております。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。

現在、総務省は高額な品を送る自治体に寄附しても優遇税制を受けられないようにする準備をしてということで、長井市はいち早く3割に守って頑張っているわけですから、ほか3割になったときに長井市が上位になるように、庁内で地方創生参事とか市長も加えてぜひやっていただきたいとお願いして、この項を終わりたいと思います。

3つ目の大項目、パークゴルフ場のトイレ整備について伺います。

10款5項2目体育施設003その他体育施設管理運営事業パークゴルフ場指定管理料14万8,400円と仮設設備借上料26万6,112円について伺います。パークゴルフ場の仮設トイレの状況を問い、さらに魅力ある施設となるよう、その

方策を考えたいと思います。

指定管理者のがわクラブで管理運営しているパークゴルフ場は、平成29年度は天候不順の影響から、年間利用者が前年度比2,600人減の6,900人となりました。

ことし7月、川西町の町営小松スキー場に、川西ダリヤパークゴルフ場が新たに整備されました。山形新聞の報道によると、このゴルフ場オープン後、近隣自治体からも川西町を訪れてパークゴルフを楽しむ流れが生まれつつあるとしておりました。

川西町のパークゴルフ場やほかのパークゴルフ場との競争が出てきていると思います。ほかの施設に利用者が流出しないように、さらに魅力ある施設にしていく必要があるのではないのでしょうか。現在の大きな課題は、トイレだと思います。教育委員会から報告、説明を受けた平成29年度重点施策の取り組み内容と評価によると、女性利用者からトイレを充実してほしいとの要望が出ているとのコメントがありました。文教常任委員会協議会で質疑したところ、現在のトイレのランクは上のほうという回答でした。

(1) 仮設トイレ借り上げ料の算定根拠について伺います。

決算書の仮設設備借上料26万6,112円は、市パークゴルフ仮設トイレ借上料と思います。洋式2棟、小1棟と伺っております。これらの仮設トイレには目隠しカバーがあるのか、算定根拠はどのようになっているのでしょうか、生涯スポーツ課長に伺います。

○小関秀一委員長 沼澤孝典生涯スポーツ課長。

○沼澤孝典生涯スポーツ課長 お答えいたします。

初めに、カバーがあるのかというようなご質疑でございますけれども、若干経過をお話しいたしますと、28年度まではトイレの位置につきましては事務所の隣にございまして、利用される方がちょっと入るときに見えるような位置にございました。したがって、目隠しとなる

カバーについては、その当時は設置してございました。しかしながらですけれども、非常に風の強いところでございまして、たびたび飛ばされるというようなことがございまして、現在につきましては野川の流心のほうを向くように、入り口が野川のほうを向くように、しかも河川側のちょっと低くなっているところに設置をしている状況でございます。

指定管理者であるのがわクラブさんからお聞きしたところ、現在の入り口は見えない位置にあるというふうなことで、目隠しについては飛ばされたりするというようなこともございますし、必要がないというふうなことで現在は設置していないというふうなお答えをいただいております。

算定根拠でございますけれども、現在洋式が2基、小便器が1基設置してございます。洋式につきましては、1基当たり1万500円、2基ですので掛ける2になります。それを8カ月リースしております。年額については16万8,000円。小使用につきましては、月9,800円、これが8カ月で7万8,400円、合計24万6,400円、それに消費税を加えまして26万6,122円のリース料となっております。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 わかりました。女性の利用者からもっと充実してほしいと要望来てるわけですから、男性用は9,800円で女性用が1万500円ということで、もう少し差があるのかなと思ったんですが、問題が1万5,000円のトイレをもう少し何とかならないかということですが、それは3番目に送っておきまして、次に仮設トイレの制限はあるのかについて伺います。

パークゴルフ場の仮設トイレは、河川敷に設置することになりますが、そのことによるトイレの大きさなどの制限はあるのでしょうか、生涯スポーツ課長に伺います。

○小関秀一委員長 沼澤孝典生涯スポーツ課長。

○沼澤孝典生涯スポーツ課長 お答えいたします。

時間がありませんのではしょって申し上げますけれども、河川管理者であります山形県に河川法第24条の許可を申請しております。期間につきましては、26年の4月1日付で提出しておりますけれども、平成35年の9月30日までの10年間となっております。

場所については置賜野川の右岸、面積が1万9,400平米となっております。同時に工作物についても申請しておりますけれども、防球ネットや管理事務所、それに簡易水洗トイレもございますけれども、簡易水洗トイレにつきましては、規格が全長1.64メートル、全幅で2メートル、高さが2.43メートル、占用の面積につきましては3.28平米というふうになっております。したがって、設置する仮設トイレの規模につきましては、現行の許可内容に準じ設置しなければならないというようになってございます。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 わかりました。制限があるということでもあります。

もう少しグレードアップできないのかということで、その分に入ります。

仮設トイレでも、もっと小ざれいなトイレがあると思います。もう少しグレードアップできないでしょうか。私もネットで調べてみました。快適女性用最高級おしゃれトイレ、価格が450万円。そのほかに、おしゃれトイレ和の匠、価格が480万円。これにはシャッタードア、ウォシュレット、シャワーつき洗面台、便座クリーナー、エアコン、火災報知機、擬音装置、緊急ランプ、衣類フックつきで観光地用とか、あと最高級トイレは外装にレンガ調の素材を使用、こういうところまでありますが、そこまでは求めません。私はそんな無理だと思いますので。

川床茶屋の仮設トイレは、月3万円のレンタルだったそうです。使った方からは、きれいで

気持ちよかったと伺っています。ぜひグレードアップしたランクの仮設トイレを設置してはどうでしょうか。その点について、生涯スポーツ課長に伺います。

○小関秀一委員長 沼澤孝典生涯スポーツ課長。

○沼澤孝典生涯スポーツ課長 お答えいたします。

もう少しグレードアップした仮設トイレが必要でないかというようなご提言でございますけれども、例に出していただきました400万円クラスのもの、類似品が300万円程度からございますけれども、調べてみたり、あるいは業者さんにお聞きしてみたところ、そういったものについては浄化槽も設置しながら、常設に近い形で設置するものようでございます。さらには、いわゆる汎用品、ほかに使い回しができないというふうなことで、初年度に購入する必要があるというようなお話でございました。

現在設置してあります洋式2、和式1、小便器1でございますけれども、当時予算要求に当たりまして、のがわクラブさんからさまざま要望を受けて、これなら大丈夫だというふうなことで設置しておりますけれども、さらに引き続いて利用者の声をお聞きしながら、必要な際は河川管理者との協議も必要でございますけれども、次年度の予算要求に反映してまいりたいというふうに思います。

○小関秀一委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 当局では新しい常設のトイレをつくっていただくということで大変努力いただいたんですが、残念ながらできませんでした。それはきちんとしたものができるまで、せめてもう少しグレードアップしたトイレの設置をお願いして、質疑を終わります。

五十嵐智洋委員の総括質疑